

要約 特許情報データベースを概念検索で利用することによりアイデア発想支援ツールとして役立つ(TGI)ことができる。これまでの多くの発想法では、その手法にとられるため自由なアイデア発想を期待することが困難であった。それに対してTGIは、知識は頭の外のデータベースを利用するが、発想は無意識に任せるものであり、発想のための特別の手法はない。したがって手法にとられることがなく自由なアイデア発想を行いうる。TGIは先行知識を学び創造を促すための支援ツールといえる。本稿ではその考え方を明らかにすることを主な目的として、具体的やり方も簡単に紹介する。

1. アイデア発想について

1. 1 学び真似るから創造へ

創造的なアイデアは評価されるが、他人を真似ただけのものは多くの場合評価されない。これは新しいアイデアが現在の困難な状況を切り開いて人をより幸福にしてくれる可能性があるからであろうし、それに対する報償といえよう。ところで、そのアイデア発想はどうやって生じるものだろうか？

外形が六角形の鉛筆を考えた人はすでに丸い鉛筆を見ていたのだろう。その丸い鉛筆も最初は木の棒の先端に黒鉛の塊を詰めこんで使うものだったらしい。つまりアイデア発想の多くは、先行する事物があってその欠点をカバーするためになされる。それは、歴史上の数々の発明発見からパソコンや携帯電話まで同じである。

それまでに分かっている知識を学び、さらに他のどこかで知った、または実験で知った知識を組み合わせることで次の新しいアイデアが生まれる。一方、過去の知識を学んでそれと同じことをした場合や、別の知識を加えた効果が小さかった場合には真似をしたことになってしまう。

ところで、学校で基礎を学ぶというのは、新しいものを何か加えることは少ないから「真似る」といえよう。学ぶことは大切で大いにやるべきだが、真似ることは卑しいことでやってはいけないという考えもあるが場合によっては大きな差はないといえる。学んでそれを部分的に真似てよいかから、次に有益な新しいアイデアを創成することが大切といえないだろうか。もしその新しいアイデアが特許出願され特許公報で広く知られば、別の人に学ばれてさらに次のアイデア発想に貢献して次々と発展していく。

少なくとも、先人に学ぶことなく独創的なアイデアの発想はあり得ない。では、どこで何を学ぶことができるのだろうか？

1. 2 勉強と情報収集

学校で学ぶものは基礎的な知識である。低学年で学ぶものほど古い時代に確立された基礎的なものであり、大学などで学ぶものは概ね新しく深く突っ込んだ知識、情報である。

学校を卒業するとめまぐるしく移り変わる新技術と出会う。専門的な技術別の学会、新聞雑誌や

各種の展示会、また社内の意見交換や発表会で新しい情報を得る。さらに世の中の動きからニーズを知ることは技術開発の目標につながる情報であり知識である。情報や知識を得るとは学ぶことである。

さてその情報源、つまり勉強材料の一つに特許情報を加えることは考えられないだろうか？

1. 3 役にたつ発想法はあるか？

世の中にはアイデア発想法という便利な（と思わせる）ものがたくさんある。ブレインストーミングやチェックリスト法などは有名なものであり、試みた人も多いだろう。

ところで、そのような方法を「継続して」使っている人や組織を見聞きしたことがあるだろうか？

導入した直後の発表会では華々しい成果が紹介されるが、その後は使われなくなるようである。本当に役立つものならば継続して使われるはずである。使われないのは利用が面倒であるか効果が少ないためと思われる。

なぜ人は繰り返しアイデア発想法を求めるのだろうか。1つの理由はそれらの方法が、魔法のような発想法を求めて探しまわる人々を納得させるためのもっともらしい装いをしているからだろうと筆者は考える。

TRIZ（トゥリーズ）というアイデア発想法がある。旧ソ連のある特許審査官の考案になるもので、米国から10数年前に我が国に入ってきた問題解決手法ともいわれるアイデア発想法である。このシステムは過去の発明などを分析して40の発明原理とか技術進化の法則を体系化したそうで、利用者の思考プロセスをガイドするようなものである。利用法を見聞きすると整然としており高尚であり、役立つだろうと思いがちである。そのため一部の会社では高額な費用を支払って導入し、説明会や研修会を開いて普及を図っているそうである。しかし習得に時間がかかり実施には面倒なステップが必要なようで、（導入成果の発表会以外では）大きな成果は出ていないようである。

これに限らず、いずれのアイデア発想法でも芳しい成果はないようである。もしうまくいっているものがあれば、もっと話題になるはずである。

魅力的に思えるアイデア発想法はなぜ役立たないのだろうか？ 野口悠紀雄氏は”「超」発想法”¹⁾の中で、「脳の中の短期記憶を保存するワーキングメモリが発想法のルールに占拠されて自由な発想ができなくなる」とのべている。

2. アイデア発想と特許情報

他人の特許を見ていると新しいアイデアの閃くことがあると古くから言われてきた。これはどういうことだろうか。

2. 1 先行知識とアイデア発想

さまざまな技術の発展に寄与した多くのアイデア発想において過去の知識が大きな役割を果たしている。

(1) 多くのアイデア発想が既存の知識の組合せを基礎にしている。

例えば次のような独創的と思われる多くの発想も、先行知識を学んで刺激材料にした成果である

といわれている。

- ①コペルニクス在地動説は彼の全くの独創ではなくマルシリオ・フィチーノの理論が元になっているといわれる。
- ②数学者のガロアは自身の業績に関して、前の科学者たちの業績に導かれる、と言っている。
- ③ベンゼン環の構造を発見したケクレは、その7、8年前にオーギュスト・ローランの出版した本に書かれたベンゼン環の炭素を六角形に配置した図を見ている。(ケクレは、ベンゼン環の構造を蛇が自分の尾にかみついた夢がヒントになったと言っている。しかしこの話は、25年もたった1890年の記念講演会で話したと彼自身による記録に書かれているもので、それ以前の公表がなく、疑問視されている。)
- ④T型モデルを作った自動車は初めて大衆化に成功したヘンリーフォードも、他人の発明を組合わせたと言っている。
- ⑤2001年ノーベル化学賞を受けた野依博士(現在、理化学研究所々長)は読売新聞(2002.4/20)で述べている; 独創的な発想のためにはしっかりした知識の基礎が必要だ。ものごとを深く理解していなければならない。その上で一生懸命考える。悩みながら継続して考える。そこまでして時たま、はっとするような発想が出てくる。情報は自分の中に刷り込まれて、初めて知識と言える。例えば、鉛筆で傍線を引きながら繰り返し本を読み込むなど、情報を自分に刷り込む実践が必要。・・・昨今の学生はもう少し基本的知識の充実が必要である。
- ⑥モーツァルトも(少なくとも初期の作品は)先人の作品を大きく参考にしているとの意見がある。(作曲は科学技術ではないが、広くみれば一種の技術であろう。)※前出「発」想法には、モーツァルト研究者であるアンリ・ゲオン、その他による「モーツァルトは模倣に模倣を重ねやがて完全に模倣できるようになった。・・・あまりにそっくりに模倣したため、彼の作品とお手本の見分けがつかなくなり、お手本の方が逆に彼の作品を模倣しているかのようであった」との見解が紹介されている。

(2) 過去の知識は新しい環境で新しいアイデアに生まれ変わる。

- ①エジソンは電球のフィラメントを陰極にすると陽極に電流が流れるとして特許をとったが、フレミングによる2極真空管の発明はそれから約20年後であった。
- ②真空管ではグリッドに加える電圧で真空中の電子の流れを制御して電流の増幅やon/offをしていたが、トランジスタでは半導体中のベースに加える電圧で電子の流れを制御する。
- ③ナイロン開発の失敗データをもとにして、はるかに高性能のポリエステルが10年後に合成された。
- ④eビジネスの多くは、これまでのビジネスとインターネットを組合わせたものである。
もちろん環境変化だけで実現されるわけではなく、研究者の努力が不可欠であることは言うまでもない。

(3) 偶然による創造も偶然の価値を評価できる専門知識が必要である。

- ①リンゴが落ちるのを見た農夫は何万人もいたろうが、万有引力を発見できたのはニュートンだけだった。
- ②アオカビは誰でも見ていたが、ペニシリンは発見できなかった。
- ③不純物が多すぎる半導体の異常現象を見逃さなかったことからトンネルダイオードが発明された。
- ④稲盛和夫氏はセラミック原料の粉末が成形できずに連日悩んでいたある時、床にこぼれていたパ

ラフィン・ワックスが靴にへばりついて倒れそうになった。そのときの閃きが元になって、ワックスをつなぎ材として入れることで成形でき、社業発展の基礎になった。

- ⑤触媒を 1000 倍まちがえる失敗で偶然に薄膜が成長。電気を通すプラスチックの発明につながった。白川英樹博士（2000 年ノーベル化学賞）。

このように、創造的な仕事において先行知識は必要不可欠なものであることが分かる。ところで、特許情報には広範囲の工業技術に関する先行知識が集まっている。

2. 2 特許情報の特長

特許情報（特許公報とその加工情報を含むもの）は学術論文などと比較して以下のような特長があり、効率的に関連知識を学ぶことができる。

- ①全てが新技術である・・・解説記事、紹介記事などはない。特許審査では過去の公知技術と大差ないと判断された案件にも新技術が述べられていることは多い。
- ②記載に秘密がない・・・秘密の部分は特許にならない。また、説明が分かり難いと発明自体が未完成とされる恐れがある。
- ③詳しく書かれている・・・平均的技術者が再現可能に書く必要のある事が特許法で規定されている。このため用語の定義や間違いやすい事物との違いなど丁寧に書かれていることが多い。
- ④記載様式が統一され分かり易く書かれている・・・請求範囲、目的、背景、解決手段、実施例、効果、図面などに分けて、同じことを少しずつ立場を変えて繰り返して書かれている。
- ⑤競って早く出願され、1.5 年で公開される・・・早く発明した者ではなく、早く出願した者に特許権が与えられる。出願した案件は約 1 年半ですべて公開公報に掲載される。
- ⑥全技術が対象・・・専門技術別ではなく特許情報という 1 つの集まりのもとに生活雑貨から最先端の技術まで収録され、毎年 30 万件前後も発行されている。学術論文は細分化された専門分野ごとに発行されるのに対して大きなメリットといえる。
- ⑦全て日本語で読める・・・外国からの出願は翻訳されている。
- ⑧ 1 つの特許は各国で発行されても同じものと確認できる・・・国際的な条約の元、同一の案件は同じ出願番号や優先権主張番号が付与されている。
- ⑨データベースの整備が万全・・・古くからの特許が、図面を含めた全文がデータベース化されている。これらを利用することで自分の必要な技術と関連深い特許情報を探し出すことはかなり容易になってきている。しかしまだワープロを使うような感覚で特許情報の検索を気軽に使えるとはいえない。ところが最近、概念検索という劇的に簡単な方法で利用可能になってきている。

3. 概念検索とその特徴

日本の特許公開公報は 20 年間分ではおよそ 700 万件にもなり、その膨大なデータベースから自分の必要としている技術に関する情報だけを選別して取り出す情報検索が必要である。

3. 1 技術内容による情報検索

原子力の安全性に関する特許情報を検索するには、基本的には、「原子力」と「安全」という用語・キーワードを and（*）条件として検索すればよい。しかし、放射性物質の拡散防止に関する特許では必ずしも原子力とか安全というキーワードは使われていない場合がある。そのため同義語を補った or（+）検索を行う必要がある。一方、「安全」というだけでは該当特許は数万件もあるだろうからさらに限定するために and 検索を加える。この程度の検索でも次のように複雑な検索式になるが、実際には近傍検索などさらに複雑なことが多い。

（原子力+放射性物質+セシウム+ヨウ素） * （安全+拡散防止+飛散防止） * （吸着+吸収）

この検索の結果が自分の想定した件数、例えば数百件であればその特許の内容を目視チェックして本当に必要なものだけを拾い出す。

検索式による情報検索はこのように検索式の作成に多くの時間がかかる。しかも、検索結果の数百件の中のどこに重要な特許があるか分からないので、最初から最後まで緊張して目視チェックする必要がある。さらに1つの検索では検索漏れが予想されるので追加の検索を行うことも多く、そのたびに同じようなことを繰り返す。そのため、検索に慣れた検索技術者による簡単な検索でも10時間から20時間程度かかることが多い。

データベースは整備されているとしても、このような状況では検索に不慣れな研究者が手軽に利用するにはまだ大きな障害があるといえる。

3. 2 概念検索の利用法

概念検索の基本的な操作は質問文を入力するだけである。図3. 1は例として「放射性セシウムの拡散防止のために吸着する」技術を検索しているが、その文章を入力するだけで関連特許をかなりの再現率で取り出すことができる。

質問文を入力して検索開始

検索の開始	検索式保存	検索式読込
<p>■ 概念検索: 検索質問文を入力して検索します。</p> <p>▼ 公報種別: <input checked="" type="radio"/> 特許 <input type="radio"/> 実用 <input type="radio"/> US</p> <p>▼ 質問文: 検索したい文章を入力してください。 放射性セシウムの拡散防止のために吸着する</p>		

抄録	全一括表示	印刷	ダウンロード	しおり	メモ一括登録	評価・共有	履歴保存	ランキング	全解除	マップ	統計	共有	検索式メモ	概念検索
G244 / 放射性セシウムの拡散防止のために吸着する														
表示項目														
選択	項番	しおり	スコア	公報番号	発明の名称	出願人	IPC	公開日	優先日	特許番号	特許日	特許種別	特許状態	特許内容
<input checked="" type="checkbox"/>	1		63	特開平05-317697	硝酸含有水溶液中のセシウムの分...	独立行政法人産業技術...	B01J20/02	1993/12/03					○	満了
<input checked="" type="checkbox"/>	2		63	特公平06-085869	硝酸含有水溶液中のセシウムの分...	独立行政法人産業技術...	B01J20/02	1994/11/02					○	満了
<input checked="" type="checkbox"/>	3		57	特開2007-271306	セシウム吸着剤と放射性核種除去...	三菱重工業株式会社	G21F9/18	2007/10/18						未請求取下
<input checked="" type="checkbox"/>	4		56	特開平08-041075	原子炉水等中のセシウム放射性同...	原子燃料工業株式会社	G07E5/02	1996/02/13						未請求取
<input checked="" type="checkbox"/>	5		53	特開平06-138298	放射性同位元素であるセシウム及...	独立行政日本原子力研究所								
<input checked="" type="checkbox"/>	6		55	特許02807381	セシウム及び/又はストロンチウ...	独立行政日本原子力研究所								
<input checked="" type="checkbox"/>	7		54	特公平07-027069	硝酸含有水溶液中のセシウムの分...	独立行政産業技術...								

結果のスコアの高い上位から順に抄録などを見る

図3. 1 概念検索の実例 (出典; 日立/シェアリサーチ)

このように基本的な操作は極めて簡単であり、検索に不慣れな人、つまり検索技術者ではない研究者や特許技術者にとっては大変便利な道具である。条件を整えば、検索式を使った検索では 10 時間かかるような調査を 1 時間で終えることも可能である。

しかしながら、操作が簡単であるためにそれが全てであるという誤解を招き、概念検索の本来の性能を引き出しえていない可能性がある。例えていえば、ピアノは鍵盤を人差し指で押すだけで素晴らしい音色が出るがバイオリンは音を出すだけで大変な苦勞をする、このためピアノは簡単だがバイオリンのような深みのある演奏はできない、という誤解に似たものがある。

また、概念検索は自動的に近いものを検索するものだから質問として特許番号指定とか請求範囲でも良いはずだ、という根強い誤解もある。

上手な概念検索を行うには、質問文のワード分布が質問したい技術内容と近い必要がある。それを具体化した概念検索の上手な使い方についてはすでに書かれている^{2),3)}ので、ここでは簡単にふれるに留める。なお、概念検索を上手に利用するとは、検索結果の上位 50 件程度を見ることで近い内容の特許が数件が見つかるような利用を想定している。

(1) 概念検索の上手な質問文

概念検索を上手に使いこなすには、調査員に特許調査を依頼するときのようなちょっとしたコツがある。とはいえ概念検索の質問文の作成は次のように検索式の作成に比べれば大幅に簡単である。

- ・技術範囲を明確に特定した短文（概ね 40～80 文字程度）。
- ・具体的なワードを使った文章が良い。
- ・類似特許が多い分野では限定した表現が必要。
- ・技術的表現だけでなく、目的や効果を含めることも有益。
- ・キーワード列挙でも良いが、文章が最良。文章＋キーワードも良い。
- ・長い質問文の場合は「または」の意味になる部分で切り離して別の質問文にする。
- ・同義語はあまり要らない。場合によっては不要、邪魔になる。

(2) 概念検索に不適當な質問文

下手な質問文を知れば、上手な質問文がさらに明瞭にできよう。

- ・短すぎて漠然とした概念の文章。
- ・長すぎて希望する概念に絞られていない文章。
- ・請求範囲／クレームはそのままでは不適當なことが多い。
- ・明細書や 10 行程度の抄録でも長すぎるが多い。

明細書全文やクレームは質問したい技術内容とワード分布が一致しないことが多いので再現率は低い。しかし、ワード分布が合っていれば高い再現率が期待できる。

(3) 概念検索の上手な使いこなし

- ・質問文を変えて概念検索を数回行う。必須である。
- ・キーワードや発行年などによる絞り込みを併用した検索は有益。ただし、絞り過ぎに注意すること。
- ・切り出されたワードの変更や重み付けの調整。
- ・特許番号指定の概念検索は簡単で便利だが漏れは多い。

- ・テーマを絞り込んだ検索に適している。工夫すればそうでない使い方にも使える。
- ・対象技術をよく知っている人が概念検索を行うといっそう短時間に効果があげられる。
- ・否定表現は検索できないが、実際の質問文では使ってもよい。

4. 概念検索によるアイデア発想支援

特許情報を概念検索でアイデア発想支援に使うやり方をTGIと略称する。

4. 1 TGIのやり方

図4. 1はアイデア発想が意識的な思考によるものと潜在意識の活動によるものがあり、特許情報はそのどちらにも貢献しうることを説明している。図4. 2はアイデア発想のタイプを分けたものである。TGIは従来の発想法と異なり、知識として自分の頭脳だけでなく外部のデータベースにあるものを併用する一方で、発想の手段としては補助的手段を使わないで自分の潜在意識に任せるといったものである。つまり、TGIは特許情報で利用者の無意識を刺激することでアイデア発想の活動を「支援」するものである。

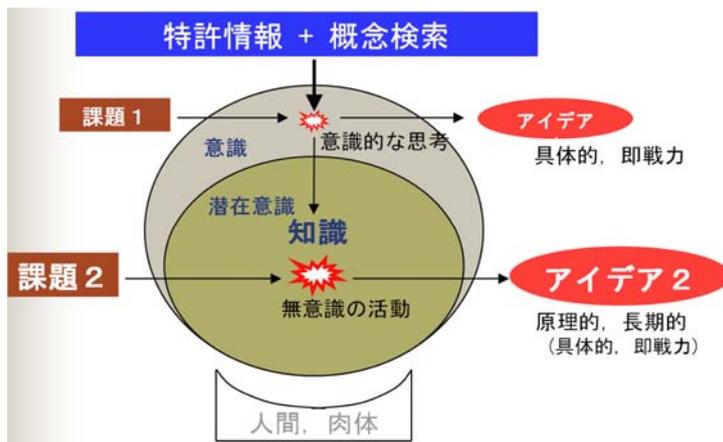


図4. 1 アイデア発想と特許情報による支援

発想の手段	補助的な手段の併用	KJ法…カードに書出し、並べ替え チェックリスト法…小さく・大きく・結合・分離などの思考操作 ブレインストーミング…大勢で意見を出し合う NM法…類推を使って発想	TRIZ …質問/回答表示で発想をガイドする
	無意識	自然な状態のアイデア発想	特許情報を概念検索で利用する (TGI)
		頭脳	データベースの併用
知識のある場所			

図4. 2 アイデア発想のタイプ

TGIの利用は次のステップで行われるだろうが、概念検索の利用以外、特別のことはない。

- ①課題を解決したいと強い目的意思を持ち継続して考える。どうすれば解決できるか夜も眠れないほど強烈に継続して考えることが必須であるが、そのために特別な手法は不要。
- ②概念検索を使って課題や一応の解決策と類似の特許を探す。
- ③見つけた特許を読む。
- ④新しいアイデアが閃いたらメモする。
- ⑤アイデアを吟味して評価を行う。

図4. 3はTGIの概念検索の部分を強調して説明したもの⁴⁾である。

- ①課題や一応の解決案の文章で「相談する」つもりで概念検索を行う
- ②上位数十件の回答の中から近い内容の特許を見つけて読む。つまり学習する。
- ③もっと探したい場合は再度、概念検索を行う。数回行うのがよい。
- ④再検索の場合に、同一分野の技術だけでなく、他分野の検索も有益なことがある。例えば「テレビの映像の明るさをプログラムで制御する消費電力低減」の場合、対象製品、手段、目的を一部ずつ欠落、変更した質問文を使って概念検索をしてみることで刺激材料として有益な情報を得る可能性がある。

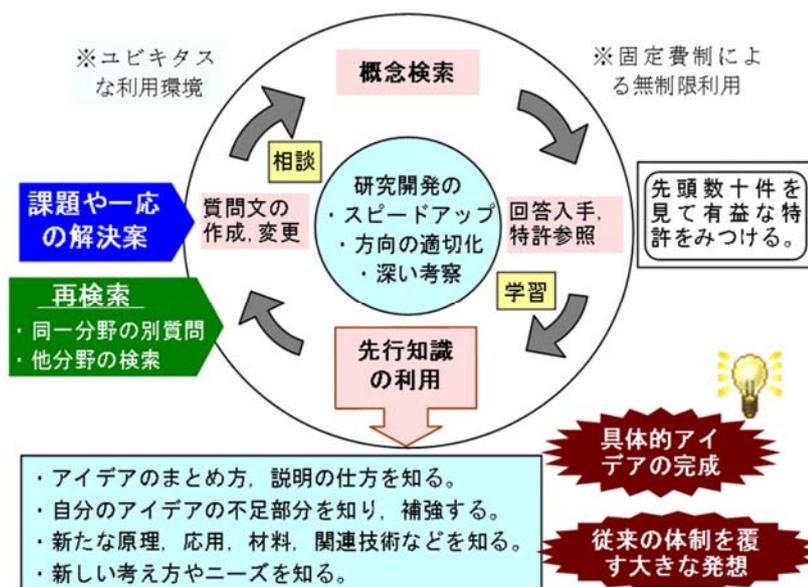


図4. 3 概念検索によるアイデア発想支援

TGIで先行知識を利用する場合、意識的に利用することがあってもよいが主に期待するのは無意識の刺激としての利用である。無意識だけにその役立ち方はつかみどころがない。それは専門知識の勉強がアイデア発想に役立つことと同じであろう。

4. 2 他の発想法との違い

TGIのやり方は「概念検索で関連特許を見つけて読むことで、無意識のうちに刺激材料として役立ち、新しいアイデアが浮かんでくるのを待つ」というものである。このやり方はいくつかの特徴がある。

- (1) 他の情報源のウェイトが大きい。

多くのアイデア発想法は、他人の過去の知識を学んで利用しているのだがそれを暗黙の了解事項として後ろに隠し、自分の頭で意識的に操作し、考える方法に力点をおいている。TGIは他人の知識を参考にすることを前面に出している。

(2) アイデアが浮かんでくるのを待つ。

意識的な考察、意識的なアイデアの組み合わせは当然おこなってよいが、それに特別の手法は不要という立場である。TGIによるアイデア発想は無意識、深層心理の活動の結果として得られる。

(3) 研究者の現在の行動パターンを大きく変える必要がない。

TGIは特別の手法がほとんど不要なので利用しようとする人への制約がほとんどなく抵抗が少ない。習得に時間がかからず、創造的な活動の時間を減らす必要がない。

(4) 他人を真似するだけではない。

TGIの目標は先行知識を学び無意識的な創造を刺激するものとして利用することであり、他人のやり方を安直に真似するだけの二番手ねらいとは異なる。

期限の切れた特許を使って（医薬品などの）モノを製造するやり方もあるが、それはTGIの対象とするものではない。

4. 3 TGI活用の重要ポイント

TGIを研究開発に活用するにはいくつかのポイントがある。

(1) 気軽に使う。

特に重要とか困難な課題に限らず、日常的に使う。気軽に使えるし、簡単な事項でも参考になることがある。頻繁に使うことで概念検索に慣れることも期待できる。「他人に頼るのは良くない、自分で考えることが大切だ」と反論がありそうだが、TGIでは自分で考えることが不要と言っているわけではない。没頭して考えることは必要でそれにより潜在意識の活動が期待できる。

(2) 繰り返して対話的に何度も使う。

課題で質問し、疑問に思うことが出てきたらそれで質問し、解決策が浮かんだらそれで質問し、見つけた特許の文章でさらに質問するというように、繰り返して概念検索を行う。利用法が簡単であるから何度使っても負担感がない。

(3) 操作の簡単な検索システムが良い。

料金が無料のシステムは概ね操作が面倒である。

(4) システムの利用料金は固定方式が好ましい。

特許1件表示するたびに費用がかかるのではそれが気になって自由なアイデアの発想がじゃまされる恐れがある。

(5) 再現率の高い概念検索システムを使うのが良い。

概念検索はシステムにより検索式方式よりも再現率の差が大きい^{2) 3)}。概ね、明細書全文を対象に概念検索を行うものが再現率は高い。

4. 4 アイデア発想にはメモが大切

うまいアイデアは長く深く考えて緊張が緩んだ一瞬に閃くことが多く、また時間がたつと思いだせなくなることも多い。そのため経験豊富な研究者、技術者の多くはすでにやっていることであるが、アイデアを思いついたらすぐにメモをとることを強くお勧めする。

ニュートンは大変なメモ魔であったらしいが、大きな業績を残した研究者はメモの大切さを知っているようである。偉大な研究者と自分のような者とは違うと思う人がいるかもしれないが、それはたぶん間違いで、メモを大切に人が偉大な成果を残せるものとする。大発見や大発明もちょっとした改良も、小さなヒラメキを大切にする点では同じようである。

- ①日本人最初のノーベル賞を受賞した湯川秀樹博士は、布団の中でうとうとしていたときに浮かんだアイデアをいつも置いていた枕元のメモ用紙に書いたものが受賞理由の中間子理論につながったそうである。
- ②1981年にノーベル賞を受けた福井謙一博士は、枕元にメモ帳を置いているようで、散歩に行くにもメモを手放さないという。ノーベル賞の受賞対象の「フロンティア電子理論」も寝床の中で思いついたそうである。「メモしないでも覚えているような思いつきは大したものではない。メモしないと忘れてしまうような着想こそが貴重なのです」とさえ言っている。
- ③作詞家、作曲家、歌手である谷村新司氏は忙しく引っ越し準備の荷造りをしていたとき「来たー」という感じで「昴」の歌詞が次々と頭に浮かんできたので、忘れないように近くにあった段ボール箱に書き付けたそうである。
- ④筆者は特許情報システムを社内に構築するに当たり、夢うつつや通勤中に浮かんだアイデアの山ほどのメモに何度も助けられた。

5. 終わりに

TGIのように特許情報をアイデア発想の原材料に利用することに関して、知的財産関係者のマインドは立場によって微妙な違いがあるように思われる。特許出願の関係者は、出願案件が他人に勉強材料として利用されることには触れたくないようである。平成14年に作られた知的財産基本法をみると「新たな知的財産の創造及びその効果的な活用」とし、「高度情報通信ネットワークの利用を通じて迅速に情報を提供」に言及している。しかし、特許情報（特許公報）を利用することによって創造活動を促進する、と読めるものは無い。また一部の人から「発展途上国では日本の特許データベースを検索して技術を真似している、困ったことだ」と聞くこともある。

しかし、特許法は「産業の発達に寄与する」ために出願明細書は「通常の知識を有する者がその実施をすることができる程度に明確かつ十分に記載」されている必要があり、特許公報を通じて情報として他人に利用されることを意図している。つまり、特許制度は特許情報が技術開発に利用されることを目的としている。

参考文献

- 1) 「超」発想法、野口悠紀雄、講談社、200年3月
- 2) 特許情報検索の課題と概念検索システムの役割、六車正道、知財管理、Vpol. 51, No. 12, 2001年12月
- 3) 概念検索による特許情報の活用法、六車正道、発明、Vol. 100, No. 4, 2004年4月
- 4) 概念検索の活用法、六車正道、Japio 2006 Year Book, 2006年11月